

アイヌタイムズ 第38号 日本語版 2006年(平成18年)9月30日 土曜日

---

# アイヌタイムズ 第38号 日本語版

---

## ★ 萱野茂さんの言葉を聞いて

昔、萱野茂さんがテレビでこのように言いました。「あなたたちは自分の言葉が話すことができます。でも、私たちは自分の言葉が話すのを禁じられて、ついに話すことができなくなりました。私たちの気持ちはあなたたちにはわからないでしょう」と話したのを見たことがあります。

別のテレビ番組で『民族の言葉は、その民族の根幹です』と話したのも見ました。日本語しか話さない人たちは、この意味はわからないだろうと思います。

私はアイヌ語を教えられていますが、アイヌ語で、アイヌの人たちがどのように神様を敬っているかがわかりました。アイヌの人たちがどのように良い心良い行いを持つ人たちかもわかりました。

日本語だけではわからないことも、アイヌ語で初めて理解できることもあると思います。

いろいろな人たちの言葉も文化も全て大切なものだと思います。他の人たちの文化も心よく聞いて理解するならば、以前にはわからなかったこともわかるようになります。それはとても素晴らしいことだと思います。今は多くの人たちが英語ばかりを話し、その『英語の国』は『グローバル・スタンダード』とも称されるものですが、言葉は一つで

はいけないのだと思います。

なぜいろんな民族は仲が悪いこともあるのでしょうか？

私はエスペラント語を勉強する者です。1887年に、ザメンホフがその言語を作りました。『人が民族を仲違いさせる物は、宗教であり言語である』とその人は考えました。

もちろん、それがすべてではないでしょうが、エスペラントを使っている人は、次のように考えます。「エスペラント語はどの民族のものでもないため、私たちの言葉や文化を他の民族たちに持つように命令せずに、誰も争わずに、いろんな民族の人たちが会話できるものである、と考えます。

(参考:「プラハ宣言」<http://www.hokkaido-esp-ligo.jp/jp/prago/prago-j.htm>)

文化も言葉も尊重して、私たちみんな仲良くなればよいと思います。

萱野さんの語る言葉は、言葉ごとに聴いて参考になるところがいっぱいあると思います。今まで一生懸命アイヌ文化を教えてくださいました。

神の国で神になった人を、私は尊敬しながら礼拝しますよ。

[横山 裕之] 沙流・千歳